

今こそやろう減災式

前回に引き続き、「自主的」と「主体的」について考え、減災式を導き出します。

「自分の命は自分で守る」この言葉だけでは人は何をすればよいのか判らないのが現状です。特に子どもたちは自分の命を自分で守るためには何をすればよいのか？自分の命が危険にさらされている「危ない」と思う経験が非常に少ないといえます。いや！“不審者が多い現状は把握できている＝経験はある”と思いがちですが、実際は、行政、学校、地域、親に見守られていると勘違いをしている人が大半で、私の安全は誰かに守ってもらっていると、思い込んでいるのです。実際には毎日のように日本中に不審者情報が流れ、更には不審者によって被害に遭うケースが、ニュースでも多く報道されています。でも、被害に遭っている人は、縁もゆかりもない他人であり、私じゃないのです。「私たちの地域でなくて良かった」と心の中で安堵してしまう、すべてが他人目線での危機管理です。

例えば「地域では防犯パトロール・夜回りをやっている」だから安心だという、どこまでも他人がやっていることに依存する対策ばかりが多いようです。このような中で、いくら行政や地域が安全安心を声高に唱えたとしても、**自分の命の危険**の本来の意味が浸透することはありません。これらを「自主的」と「主体的」で切り分けて考えてみましょう。

「自主的」とは、やれといわれてからやるのではなく、自分でやろうと思ってやることです。だから、参加して下さいと言われてなくても防犯パトロールにすすんで参加すること。



「主体的」とは、状況を判断して、自らの責任で最も効果的な行動をとることです。ならば、自ら防犯パトロールに参加して、どのような目的を目指しているのかを考え、その目的を定義し、今後のさまざまな安全対策を企画し実行する。

「防犯パトロール・夜回り」は、どこの誰かしらない他人の安全をを図ることを考えているのではなく、自分や自分の大切な人達の安全を守るための行動です。

防犯も防災も同じことです。「台風が接近している

ので注意しましょう」と各所に注意喚起が張り出される。注意をしようとする人はいますが、何のために注意するのか判らない人が多いようです。確かに「台風が大きいね、強そうですね」と興味はあるようです。でも、ベランダの物を室内に、ガラスの飛散防止、ドアの開閉注意、サッシから雨水進入防止を呼びかけても、ほとんどの人はやらない。何故やらなければならないのか、項目ごとに目的を定義してみましょう。

【ベランダに置いてる物を室内に入れる】

飛んだ物が落下して人にあたれば大怪我どころではなく、人の命を奪うことになる。

【ガラスの飛散防止】

飛んできた物でガラスが割れるだけではなく、割れたガラスでの大怪我、もし就寝中なら枕元のガラスが割れ、頭部に当たれば命をも奪われることになる。

【ドアの開閉注意】

片面の窓だけが開いた場合は、さほど風の侵入はないが、両面の窓が開いた途端に強烈な風が家の中を吹き抜ける。これがドアだったら、考えられないような強さでドアが一気に開きます。そのとき、向こう側に人がいたとしたら、それがもしも小さな子どもだったら、当たれば命を奪われることになる。逆に強く一気に閉じた場合に、指を挟んでしまい指を切断しかねない。

【サッシから雨水進入防止】

自分の家が濡れ、漏水して階下の家も濡れてしまうだけではなく、自宅内に侵入した水が畳の下に入り込み、濡れてカビやダニが発生することで呼吸器系の疾患へと繋がる場合がある。

これらすべてが自分の大切な人を対象とすることだと考えたら、大切な人を守るためという目的が定義できれば、自ら対策するはずです。この程度なら大丈夫と思わず事前に対策！もしも台風が来なければ、笑って済ませましょう。そんな生活防災の習慣を身に付けましょう。次のようなことも、生活防災の知恵となります。

ベランダに鳩ネットを付けていれば、日常的にベランダに鳩が侵入せずベランダが汚れない。突然の風でも洗濯物等が飛散せず安心。

窓ガラスにUV対策シートを貼り付ければ、日常的に室内温度の上昇を抑え、エアコンもよく効き、電気代も安くなる。飛来物がガラスに当たっても飛散しない。



玄関ドアのドアマン（ドアクローザー）の開閉速度を調整していれば、日常的に開け閉めが楽になり、強い風の時も一気に開閉せず安全対策に繋がる。

サッシから雨水進入防止にタオルを詰めていれば、雨の進入による水濡れを防ぐことになる。後は一緒にサッシの掃除もでき、家の点検にもなる。

普段から生活の中で目的を設定し、定義することで「命を守ること」に繋がります。**主体的に考えること**、これが今回の減災式です。

最後に、子どもが「お母さん、赤信号だから渡ってはダメだよ！」と言っているにもかかわらず、お母さんは「今、車が来ていないから大丈夫。はやく渡るよ」



「信号を守る」なぜ守らなければならないのか。こんな簡単なことから考えてみませんか。